

「人はなぜ争うのか？」

2013年3月16日(土)

会場：カフェ ALBA

参加：17名

司会・文責：堀越

1. 概要；

- ・新規5名を含む総勢17名の参加者で、人が争う根本原因について考えた。原因の一つの可能性として、人間の権力（他者よりも優位になること）志向について議論した。

2. 議論；

(0) テーマについて

- ・今年1月の前は、「なぜいじめは起きるのか？」をテーマとして、人が他者と関わる時の負の側面を取り上げた。今回は、その負の側面をもっと広く捉えて「争い」をテーマとして取り上げる。

(1) 「争う」と「競う」は違うのか？

- ・「争う」と似た言葉に「競う」がある。「競う」には何となくプラスの印象があるが、「争う」にはない。
- ・「競う」には理性が関与し、ルールがあるが、「争う」には理性の関与やルールがあるように思えない。
- 「競う」の例：受験競争、スポーツ等の競技

(2) 「競う」は自分を高めるのか？

- ・理性や一定のルールの介在があるため、「競う」ことで自分を高められる。
- ・「競う」相手は、必ずしも他者に限らず、過去の自分が相手であることもある。
- 過去の自分が競争相手の例；スポーツのベスト記録、学業での成績

(3) 人間の「争う」は動物の「争う」とどう違うのか？

- ・Uさん；動物の争いは、種の繁殖時や他種動物との食物連鎖時に限定され、原則として種内で殺し合いはしない。対して、人間は「誰かに従う」行動様式を身に付け、その対概念として「権力」概念を持つに至った。
- ・類人猿（サル）の集団においても、ボスザルの地位を巡ってオスザル同士で争うことがある。これは、類人猿で「ボス」ザルという権力概念を身に付けている証拠であろう。しかし、人間ほどではないので、殺し合いはしない。

(4) 権力概念の発生源はどこか？

- ・Uさん；動物には、本能や集団的無意識*1のみで営為することしかできないため、種内の構成員が自律的に協働し、動的平衡を維持しようとするのが行動原理となる。一方で、人間は、生物進化の過程で理性を発達させたため、「誰かに従う」行動をし、さらに対となる「権力」概念も作った。つまり、理性こそが争いの根本原因と考えられる。
- *1) C.G ユング：「原型論（集団的無意識）」参照。

(5) 思考実験

- ・参加者の一人：Hさんから、よりシンプルに人が争う原因を考える目的として、次のような思考実験の提起があり、それに則って議論を進めた。
- <思考実験> ある所定の空間を持つ部屋の中に二人の人間だけが配置されたとする。二人の人間には、希望すれば*2、どんな願いでも叶えられるとする。どんな願いでも叶えるために、便宜的に神(万能者)という存在がその部屋の管理監督者としていることにする。
- *2) 当日の議論は「二人の希望を先取りして神が叶える」場合もあると受け止められたかのように進み、参加者の誤解を生んだ可能性がある。しかし、提起者の主旨は、あくまで「望む」ことで「希望が叶う」のであって、「望まない」ときは「想定される希望を先取りして充足はしない」条件であった。
- ・思考実験のように、全ての希望が充足される状態であれば、あえて二人で「争う」ことはないと思う。よって「争う」ためには、何らかの不満がないと争えないのではないか。
- ・例えば、分割が不可能な、世界に一つしかない「あるもの」(例；二人が男性として、二人が同時に望むような絶世の美女)を二人に与えたとすると、それを巡って争いが起きるのはなぜか？
- ・その美女が与えられた場合も、他者よりも優位になるという「権力」が欲しいことが原因と説明が可能である。
- ・Aさん；二人いれば同じ状況下でも共感の仕方等が異なり、そこに起因する二人の人間関係そのものが争いの種になるのではないか。それは「権力」が欲しいという理由で説明できないのではないか。

3. まとめ；

- ・動物との対比を通じて、人間だけが持つ理性が生み出した「権力」概念こそが「人が争う」原因であるという考えが提起され、その議論を深めることができた。
- ・後で振り返ってみると、「権力」とは別原因として、「所有」という概念も「人が争う」原因となりえるのでは？と思いついたが、それは次の機会の課題としたい。

以上